

Forex

株式会社 ジャパン
エコノミックパルス

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町

2-33-5

Tel 03-5962-3910

Fax 03-5962-3913

www.j-pulse.co.jp

info@j-pulse.info

Market Insight

2025年6月16日（月）

全般的な円安、継続余地と反動調整にらむ

中東、関税、日米英の中銀会合、日本国債など焦点

今週の為替相場は全般的な円安と外貨高に関して、継続余地と反動調整的な揺り戻しをにらんだ展開となる。週間予想はドル/円が143.30-145.80円、ユーロ/円が164.50-168.20円。前週は米中の関税協議進展がドル高と円安、日銀総裁の利上げ慎重姿勢が円安、米国の物価指標などの落ち着きがドル安、イスラエルとイランの武力衝突と原油高がドル高や円安の要因となる場面があった。今週は中東情勢や米関税動向、日米英の中銀政策会合、日銀会合や国債市場特別参加者会合等を受けた日本の国債市場動向などが焦点になる。

原油高持続ならドル高・円安、原油高一服ならドル安・円高

今週の為替相場で注目されるのは、イスラエルとイランの武力衝突と中東地政学リスクの行方だ。前週末13日以降はイランによる核開発の強硬姿勢などを受けて、イスラエルがイランの核施設などを爆撃する一方、イランは報復攻撃を行っている。産油国・イランや産油地域・中東での混乱は原油の供給懸念となり、原油相場が大きく上昇。原油の産出国である米国のドルは買われる一方、原油の輸入国で資源調達での中東依存度が高い日本の円は売られている。

今週以降は衝突の激化や長期化の懸念方向で、原油高とドル高、円安のほか、対円では資源国通貨高（ノルウェー・クローネ、カナダ・ドル、豪ドル、NZドル、メキシコ・ペソなど）が後押しされる。反対に衝突の一服や米国・ロシアなどの仲介で緊張緩和の方向となれば、逆戻し的な原油安とドル安、円高、対円での資源国通貨安という手探り相場が見込まれる。

原油高によるドル高の要因としては、1) 各国の原油取引決済はドル建てが多く、原油高はドルの取引金額を増加させる、2) 米国は産油国で中東混乱でも原油調達には安定感があるほか、米国による原油輸出が増える可能性もある（貿易収支改善）、3) 米国での物価上昇要因となることで、米国債金利の上昇につながるほか（米国債価格は下落）、米FRBによる次回利下げの時期遅延や今後の合計利下げ幅の縮小につながる可能性がある、といった要因がある。

反対に原油高による円安の要因としては、1) 日本の輸入企業によるドル買い必要額を増加させるほか、日本の輸入増と貿易収支の悪化につながる、2) 日本は資源輸入で中東依存度が高く、日本の資源調達難と調達コスト上昇の懸念が高まる、3) 日本で物価高の要因となる一方、日銀は関税懸念や国債金利の上昇問題などで次回利上げの時期遅延と合計利上げ幅の縮小が焦点になっており、日本の実質金利を押し下げる（名目金利－物価変動率）、といった要因がある。

今週の為替相場では、米トランプ政権による関税強化策と各国との交渉が注目点となる。16-17日にはカナダでG7サミット（主要国首脳会議）が開催され、各国・EU首脳とトランプ米大統領との個別会談が予定されている。

トランプ氏は15日、サミット期間中に「新たな貿易合意」を結ぶ可能性を示唆した。日米については日本時間17日午前に首脳会談が調整されているが、石

WARNING! 記事並びに情報はすべて株式会社ジャパンエコノミックパルスに帰属しています。無断転載及び転送は法的に罰せられますのでご注意ください。



〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-33-5 マリオン浜町ビル
TEL (03) 5962-3910 FAX (03) 5962-3913
E-Mail info@j-pulse.co.jp URL <http://www.j-pulse.co.jp>
発行責任者：上坂 郁 編集長：原田 祥二

破茂首相は15日、「（関税交渉で）日米双方に利益になる合意が実現するよう最大限の努力をしたい」と強調している。

今週は日米を含めて関税交渉が進展となれば、ドル高やリスク選好の円安へと作用。反対に合意の遅延や交渉の難航が示されると、ドル安やリスク回避による円高が後押しされやすい。

日米間では日本製鉄が米鉄鋼大手USスチールの買収に関して、14日に買収承認に必要な「国家安全保障協定」を米国政府と14日に結んだ。今後は141億ドル（約2兆円）を投じてUSスチール株全てを取得するが、買収手続きは18日（米国時間）に完了する見通しとされる。目先は2兆円のドル転・円売り手当てが出てくる可能性や、先行き発生の思惑が、為替相場ではドル高・円安の後押し、もしくはドル安・円高抑制の要因となる。その他の注目ポイントは以下。

<ドル/円とクロス円、節目上抜けと上向き攻防>

為替相場ではドル/円、クロス円取引（円の対非ドル通貨相場）で、緩やかながらも外貨が下限を切り上げている（円高圧力の緩和）。米関税等の過度なリスク回避の緩和や、原油高・円安、日本国債の金利上昇一服（債券価格は上げ渋り）、日銀による利上げの遅延や利上げ回数の減少思惑などにより、対円で各通貨が底上げされている。

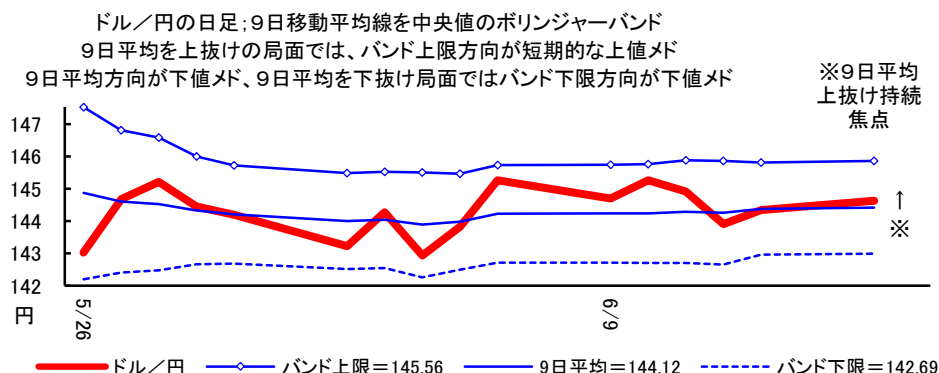
その中で短中期のトレンドを示す週足テクニカルで、重要節目ラインの上抜け回復や、節目ラインの方向角度の上向き転換を見極める展開となっている。ドル/円は6週、8週、9週の移動平均線、ユーロ/円やポンド/円、スイス・フラン/円、ノルウェー・クローネ/円などは13週・26週・45週の移動平均線、NZドル/円や豪ドル/円、カナダ・ドル/円、南アフリカ・ランド/円、メキシコ・ペソ/円などは9週・13週、15週の移動平均線を巡る攻防となっている。

<日銀政策会合>

今週の日本では、日銀が16－17日に金融政策決定会合を開催する。市場予想は現状維持。現在は米国の関税要因や中東紛争などの不透明材料があり、現状判断や総裁会見では「利上げ様子見」が強調される可能性がある。前週10日には日銀の植田和男総裁が、基調的な物価上昇率は「まだ2%に少し距離がある」とし、2%目標の達成に向けて実質金利をマイナスで推移させて緩和的な環境を維持している、という見解を示した。早期利上げには慎重さが示唆され、為替相場では全般的に円安と外貨高に振れる場面があった。

同時に日銀会合では、2026年4月以降の国債買い入れの減額ペースが焦点となる。関税等による先行き不透明感や、日本国債の増発懸念、超長期債を中心とした金利上昇（債券価格は下落）圧力などに配慮し、「減額ペースの鈍化」が示されると、日本国債の金利上昇抑制へと作用。全般円安の要因となる可能性も秘めている。

日本では財務省が20日、国債市場特別参加者（プライマリーディーラー、PB）会合を開催する。2025年度国債発行計画のうち、年限債発行をどう見直すかが焦点となるが、金利上昇（＝円高）リスクへの目配り強化が注目される。



＜米FRBのFOMC＞

今週の米国では、17－18日に米FRBがFOMCを開催する。市場予想は現状維持。現在は関税影響によるインフレ上昇と雇用を始めとした景気悪化の両リスクを見極める段階にあるほか、足元では中東紛争と原油相場の再上昇といった問題に直面している。原油高はインフレ上昇の要因となるもので、FOMCでは声明や議長会見で「利下げ様子見」強調の可能性がある。

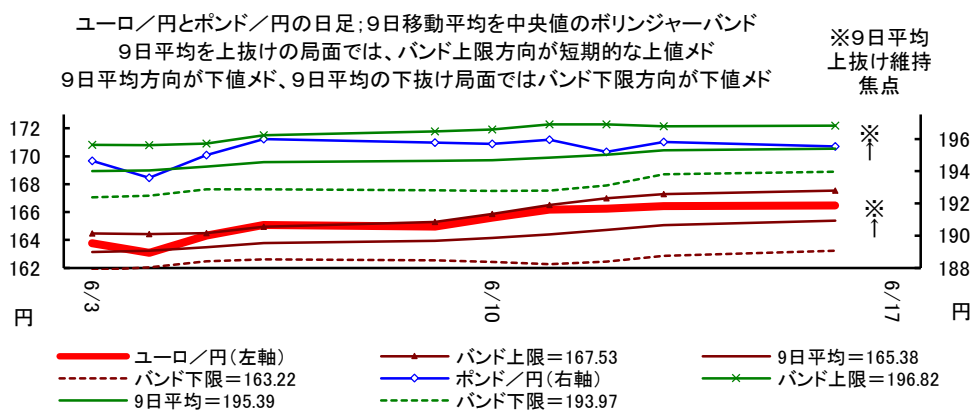
前週には米国での物価指標の落ち着きもあり、9月にかけての利下げ再開観測が高まった。今週のFOMCでは、関税や原油高などによるインフレ上昇警戒姿勢が目立つと、9月以降への利下げ遅延観測に作用。反対に物価落ち着きへの自信と先行き雇用悪化への懸念が微妙に目立つと、改めて9月の利下げ観測が後押しされる。

＜英中銀の政策会合と英欧通貨＞

今週の英国では、19日に英国中銀が政策会合を開催する。市場予想は現状維持。英国では前週に5月の雇用者数が5年ぶりの大幅減となり、増税等の打撃が示された。年内2回の利下げ観測が高まっている。今週の英中銀会合で追加利下げが示唆されると、短期的にポンドの下落要因となりやすい。

一方で英国では米国との関税交渉が進展しているほか、他国比で「関税影響は限定的」との楽観論もある。先行きの利下げ余地による景気下支え効果や、残り2回での利下げ終了観測などにより、ポンドは緩やかながらも下限切り上がりの基調が維持される可能性がある。

欧州に関しては前週末、ラガルドECB総裁が「物価上昇率は目標に近づいている」との認識を示した。前週にはECBのシュナーベル理事が、「利下げサイクルは間もなく終了するだろう」と述べ、物価と経済がいずれも想定通りの軌道にあるとの認識を示している。引き続き米国の関税や中東混乱といった不透明要因はあるものの、ECBの利下げ終了観測やECBの経済と物価動向への自信は、ユーロの下支え要因となる。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。